



2023年度 第3四半期
決算説明資料

 三菱ガス化学株式会社

2024年2月9日

証券コード
4182



1 | 2023年度 第3四半期 決算概要

2 | セグメント別業績概要

3 | 業績予想

はじめに「2023年度第3四半期決算概要」、続いて「セグメント別業績概要」、最後に「業績予想」という順でご説明いたします。

1 | 2023年度 第3四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

はじめに「2023年度第3四半期決算概要」についてご説明いたします。

2023年度 第3四半期 業績サマリー



- 売上高：三菱エンジニアリングプラスチックス社(MEP)連結化、円安などにより増収
- 営業利益：ポリアセタール(POM)市況下落、芳香族化学品・有機化学品の販売数量減などにより減益
- 経常利益：メタノール市況下落による海外メタノール生産会社の持分法利益減少、及び繰延税金負債の取り崩しによる一過性利益の剥落※等により減益(※ベネズエラのメタノール生産会社にて計上、影響額▲50億円)
- 四半期純利益：MEP連結化に伴う段階取得差益が増益要因も、営業・経常利益の減少により減益

単位:億円	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増 減	
			金額	%
売上高	5,993	6,217	+224	+3.7
営業利益	454	386	▲67	▲14.8
経常利益	637	434	▲203	▲31.9
親会社株主に帰属する四半期純利益	445	400	▲44	▲10.0
一株当たり四半期純利益(円/株)	216.59	196.18		
為替レート(JPY/USD)	137	143		

(注) 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

4ページをご覧ください。

2023年度第3四半期業績のサマリーを示しております。

当第3四半期は、ポリアセタールの市況下落や、芳香族化学品（MXDA、芳香族アルデヒド）、有機化学品（MMA）などの販売数量減少により、営業利益は前年同期比15%減の386億円となりました。

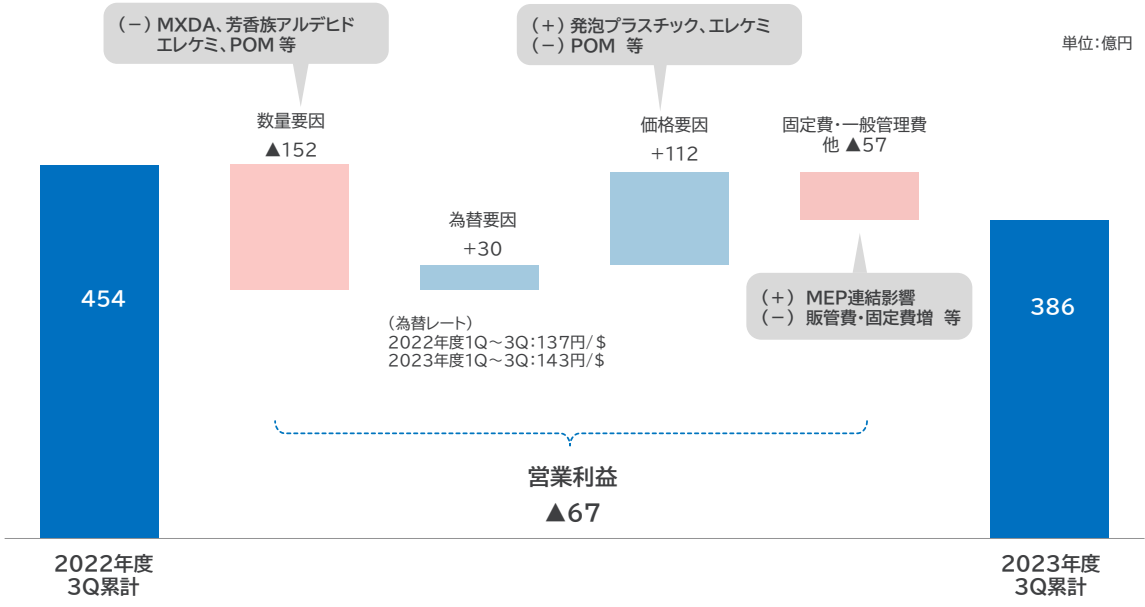
また、メタノール市況下落に伴い、海外メタノール生産会社における持分法利益が減少したことや、昨年度の第2四半期にベネズエラのメタノール生産会社において計上された、繰延税金負債の取り崩しによる一過性利益が剥落したことなどから、経常利益は前年同期比32%減の434億円となりました。

四半期純利益は、三菱エンジニアリングプラスチックス、以下MEPと呼ばせて頂きます、その連結化に伴う段階取得差益の計上などが増益要因となりましたが、営業利益・経常利益の減少により減益となりました。

2023年度 第3四半期 営業利益 増減要因(前年比)



単位:億円



三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 5

5ページは2023年度第3四半期の営業利益の増減要因を、前年同期との比較で示しております。

数量要因は、MXDAや芳香族アルデヒドなどを中心に販売数量が減少したことにより、152億円のマイナスとなりました。

為替要因は、ドルおよびその他通貨が円安に振れたことから、30億円のプラスとなりました。

価格要因は、ポリアセタール市況下落がマイナス要因となるものの、発泡プラスチック事業やエレケミの採算改善などのプラス要因が上回り、112億円のプラスとなりました。

固定費・一般管理費等は、減価償却費や研究開発費が増加したことなどから、57億円のマイナスとなりました。

1 | 2023年度 第3四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

続いて、セグメント別業績概要をご説明します。

セグメント別 売上高・営業利益・経常利益

単位:億円	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減
売上高	5,993	6,217	+224
基礎化学品	3,657	3,249	▲407
機能化学品	2,391	3,029	+638
全社/調整	▲55	▲62	▲6
営業利益	454	386	▲67
基礎化学品	189	164	▲24
機能化学品	284	249	▲34
全社/調整	▲20	▲27	▲7
経常利益	637	434	▲203
基礎化学品	290	165	▲125
機能化学品	335	293	▲41
全社/調整	12	▲24	▲36

三菱ガス化学株式会社

【参考】主要製品群(旧セグメント別)



単位:億円	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減
売上高	5,993	6,217	+224
天然ガス系化学品	1,871	1,520	▲350
芳香族化学品	1,816	1,753	▲63
機能化学品	1,904	2,561	+657
特殊機能材	487	468	▲19
全社/調整	▲86	▲86	+0
営業利益	454	386	▲67
天然ガス系化学品	82	57	▲25
芳香族化学品	106	107	+1
機能化学品	201	152	▲49
特殊機能材	82	97	+14
全社/調整	▲19	▲27	▲8
経常利益	637	434	▲203
天然ガス系化学品	175	52	▲123
芳香族化学品	115	113	▲1
機能化学品	230	182	▲48
特殊機能材	104	110	+6
全社/調整	12	▲24	▲37

(注)便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 7

7 ページは、セグメント別の売上高、営業利益、経常利益を示しております。
詳細は次のページ以降でご説明しますが、左側の表の通り、基礎化学品は減収減益、機能化学品は増収減益となりました。

また参考値になりますが、右側の表に主要製品群別の損益も示しております。
詳細はこのあとご説明申し上げます。

基礎化学品

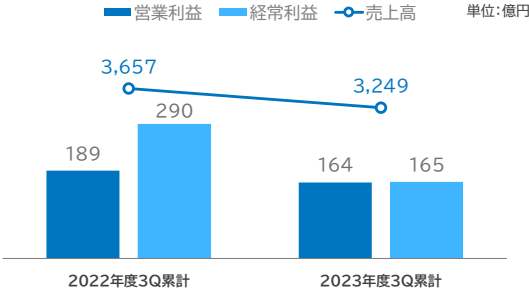


2023年度3Q実績

売上高:
メタノール市況下落や芳香族化学品・有機化学品の販売数量減などにより減収

営業利益:
芳香族化学品・有機化学品の販売数量減などにより減益

経常利益:
メタノール市況下落等に伴う海外メタノール生産会社の持分法利益の減少や繰延税金負債の取崩しによる一過性利益の剥落などにより減益



		2023年度3Q累計 (2022年度3Q累計比)
天然ガス系化学品	メタノール	市況が前年同期に比べ下落したことなどから減益(前期366→今期304 ^{ドル})
	メタノール・アンモニア系化学品	MMA系製品を中心に販売数量が減少したことなどから減益
	エネルギー資源・環境	ヨウ素の販売数量増加および市況上昇などにより増益
芳香族化学品	ハイパフォーマンストップダクツ	欧米景気減速に伴う需要低迷により、MXDAや芳香族アルデヒドの販売数量が減少し減益
	キシレン分離/誘導品	高純度イソフタル酸(PIA)の市況が下落したことなどから減益
	発泡プラスチック(JSP)	製品価格改定等による売上高の増加や、コスト削減などから増益

三菱ガス化学株式会社 ※内訳は、主要製品群別セグメントを記載

単位: 億円	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減
売上高	3,657	3,249	▲407
天然ガス系化学品	1,871	1,520	▲350
芳香族化学品	1,816	1,753	▲63
調整	▲30	▲24	+6
営業利益	189	164	▲24
天然ガス系化学品	82	57	▲25
芳香族化学品	106	107	+1
調整	0	▲0	▲0
経常利益	290	165	▲125
天然ガス系化学品	175	52	▲123
芳香族化学品	115	113	▲1
調整	0	▲0	▲0

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 8

8ページ、基礎化学品事業についてご説明します。

営業利益は、芳香族化学品や有機化学品の販売数量減少などにより、減益となりました。

経常利益は、メタノール市況の下落に伴い、海外メタノール生産会社の持分法利益が減少したことなどから、減益となりました。

続いて、主要事業別にご説明します。

メタノールは、需要の低迷に伴い、市況が前年同期の366ドルから今期304ドルに下落したことなどから、営業利益・経常利益ともに減益となりました。

メタノール・アンモニア系化学品は、MMA系製品の販売数量減少などにより減益となりました。

エネルギー資源・環境事業は、子会社である東邦アーステックのヨウ素の販売数量増加および市況上昇などにより増益となりました。

ハイパフォーマンストップダクツは、メタキシレンジアミンと芳香族アルデヒドにおいて、欧州の景気減速や米国の需要低迷により販売が減少し、減益となりました。

キシレン分離/誘導品は、PIAの市況下落などから、減益となりました。

発泡プラスチック（JSP）事業は、製品価格の改定が進んだことや、原燃料価格の下落に伴い、増益となりました。

2023年度3Q実績

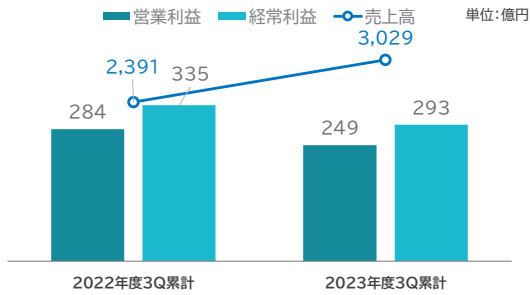
売上高:
三菱エンジニアリングプラスチックス社(MEP)の連結化により増収

営業利益:
ポリカーボネート(PC)の採算改善や電子材料の需要回復が増益要因となるも、POMの市況下落などにより減益

		2023年度3Q累計 (2022年度3Q累計比)
機能化学品	無機化学品	半導体薬液需要は低迷も、原燃料価格や輸送費の上昇等の販売価格への転嫁により前年同期並みの損益
	エンジニアリングプラスチックス	PCは高付加価値品の販売増等により増益も、POM市況下落などにより、全体では減益
	光学材料	第2四半期からスマホ新機種種の生産が立ち上がり需要の回復基調が続いた結果、前年同期並みの損益
特殊機能材	電子材料	BT材料のスマホやPC向けの需要が回復したことなどから増益
	脱酸素剤	巣ごもり需要の反動減や、輸出版売の減少、原材料価格上昇などにより減益

※内訳は、主要製品群別セグメントを記載

三菱ガス化学株式会社



単位:億円	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減
売上高	2,391	3,029	+638
機能化学品	1,904	2,561	+657
特殊機能材	487	468	▲19
調整	▲0	▲0	+0
営業利益	284	249	▲34
機能化学品	201	152	▲49
特殊機能材	82	97	+14
調整	0	0	▲0
経常利益	335	293	▲41
機能化学品	230	182	▲48
特殊機能材	104	110	+6
調整	0	0	▲0

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 9

9ページ、機能化学品事業についてご説明します。

売上高は、今期からMEPを連結化したことにより、増収となりました。

営業利益は、ポリカーボネートの採算改善や、電子材料の需要回復が増益要因となりましたが、ポリアセタールの市況下落などにより、減益となりました。

続いて、主要事業別にご説明申し上げます。

無機化学品は、半導体薬液の需要は低迷が続くものの、昨年1月に一部の製品で実施した価格改定が増益要因となり、前年同期並みの損益となりました。

エンプラについて、ポリカーボネートは、高付加価値品の販売増などにより海外生産拠点の採算が改善し増益となりましたが、ポリアセタールの市況下落の影響が大きく、全体では減益となりました。

光学樹脂ポリマーは、第2四半期からスマホ新機種向けの生産が立ち上がり、需要の回復基調が続いた結果、前年同期並みの損益となりました。

電子材料は、BT材料のスマホやPC向けの需要が回復したことなどから増益となっております。

1 | 2023年度 第3四半期 決算概要

2 | セグメント別 業績概要

3 | 業績予想

最後に、業績予想についてご説明します。

2023年度通期 業績予想



－ JSPの持分法適用会社化により、売上高は前回予想比で減収

単位:億円	2023年度 前回予想*	2023年度 今回予想	増 減		2022年度 実績
			金額	%	
売上高	8,400	8,000	▲400	▲4.8	7,812
営業利益	460	460	-	-	490
経常利益	490	490	-	-	697
親会社株主に帰属する当期純利益	470	470	-	-	490
一株当たり当期純利益(円/株)	229.71	231.25			239.08
R O E (%)	7.6	7.5			8.3
R O I C※ (%)	5.4	5.7			8.8
為替レート(JPY/USD)	136	142			135

※ROIC＝経常利益/投下資本

*2023年8月7日公表

(注)但しセグメント別の売上高・各段階利益および為替前提等は、2023年11月8日公表の第2四半期決算資料に見直しております。
次ページ以下に記載の「前回予想」は、2023年11月8日公表値を使用しております。

11ページは2023年度通期 業績予想の概要を示しております。

売上高は、第4四半期からJSPが持分法適用会社となったことなどから、400億円減収の、8,000億円を予想しております。

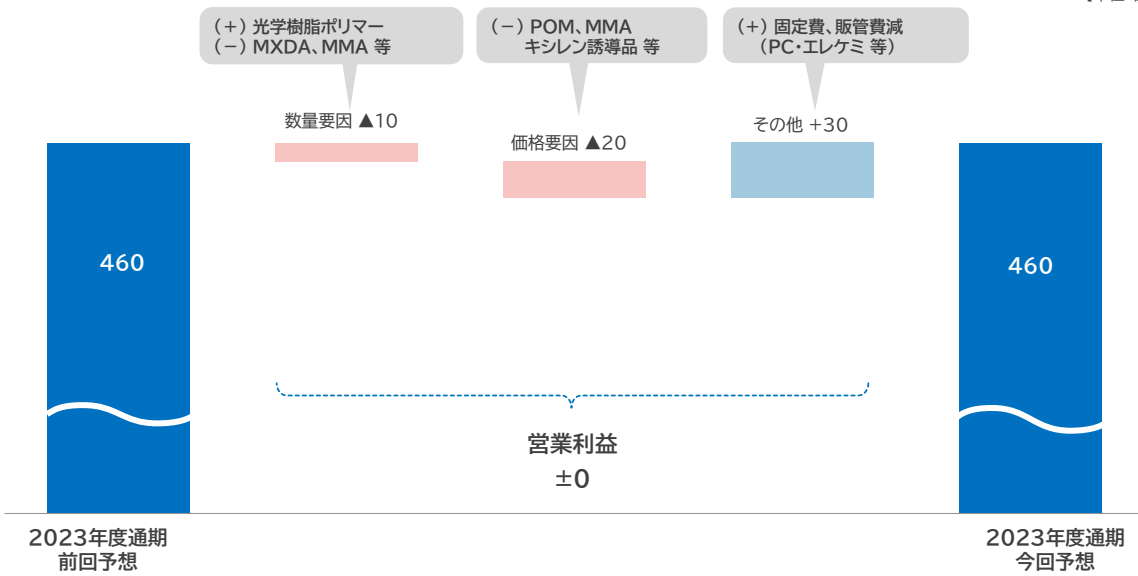
各段階利益については、JSPの持分法適用会社化等も考慮した上で、前回予想据え置き of 営業利益460億円、経常利益490億円を予想しております。

ただし、個別のセグメント別の見直しは実施しておりますので、通期業績予想のポイントについては、次の12ページ、13ページでご説明いたします。

2023年度 通期 営業利益 増減要因(前回予想比)



【単位:億円】



三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 12

12ページは、対前回予想比の、営業利益増減要因を、滝グラフで示しております。

数量要因は、光学樹脂ポリマーの販売数量は上振れが見込まれるものの、メタキシレンジアミンやMMA系製品などの販売数量減少が見込まれ、前回予想からの下振れを予想しております。

価格要因は、POMの市況が想定を下回り、MMA系製品やキシレン誘導品などにおけるスプレッド悪化など採算悪化が予想され、前回予想からの下振れを予想しております。

固定費・一般管理費等は、ポリカーボネートやエレケミの海外生産拠点における採算改善などにより、前回予想からの上振れを予想しております。

2023年度 通期業績予想のポイント、第4四半期の見通し(営業利益)

【基礎化学品】

- ・メタノール:需要は低調も、供給側の稼働減もあり(冬季の天然ガス供給制限等)、4Q市況は340ドルへ上昇を予想
- ・4Qにおいて水島工場の固定費増加(3Q比で約20億円)を見込む(前回予想から変更なし)
- ・MXDA、芳香族アルデヒド:欧米向け需要は低調だが徐々に改善し、3Q比では販売増を見込む
1,3BAC:中国向けシーリング剤用途、欧州向け大理石用途など需要は堅調(旧正月影響により3Q比では販売減)
- ・JSP:持分法適用会社化に伴い売上高・営業利益は4Q以降剥落

【機能化学品】

- ・エレケミ(半導体向け薬液):半導体需要の弱含みは継続。薬液は3Q並みの販売水準を想定
- ・PC:高付加価値品の販売増や原燃料費の下落などにより、上海・タイなどの海外拠点の採算改善が進む。
但し4Qは旧正月影響による販売減に加え、固定費や低価法などのコスト要因もあり、3Q比では減益予想
- ・POM:需要が予想を下回り、3Q並みの損益水準で推移する見通し
- ・光学樹脂ポリマー:スマホ向けは回復。但し3Qの旧正月先行受注の反動もあり、4Qは3Q比減益の見込み
レンズモノマー:引き続き需要は旺盛であるものの、定修により4Qは3Q比減益
- ・BT材:メモリ向けは依然弱含んでいるものの、全般的に需要は回復基調が続いており、4Qは3Q比で更なる販売増を見込む。
OPE:AIサーバ向けなどでの需要拡大により引き続き堅調な販売を見込む

■為替前提: 1米ドル140円(前回予想と同じ)、1ユーロ150円(前回予想と同じ) (為替感応度(USD、概算):1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益6億円/年の減益(増益))

■原油価格前提: 80ドル/bbl.(前回予想と同じ) (原油感応度(USD、概算):1\$/bbl.の上昇(下落)で、2億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず)

三菱ガス化学株式会社

©MITSUBISHI GAS CHEMICAL COMPANY, INC. | 13

最後に13ページ、2023年度通期業績予想のポイント、第4四半期の見通しをご覧ください。

基礎化学品ですが、

- ・メタノールについては、需要の回復は遅れているものの、冬場の天然ガス供給制限などもあり、4Qの市況は340ドルへの上昇を予想しております。
- ・芳香族系化学品では、例年同様4Qに水島工場の定修がおこなわれ、固定費の増加を見込んでおります。
- ・販売面について、メタキシレンジアミンおよび芳香族アルデヒドは、欧米向け需要が低調であるものの、3Q比では改善を見込んでおります。1,3-BACは、中国向けシーリング剤用途や欧州向け大理石コーティング用途などがこれまでも堅調に推移してきましたが、4Qは中国の旧正月の影響で3Q比販売減を見込んでいます。

続いて機能化学品ですが、

- ・エレケミは、半導体需要の弱含みが継続しており、当社の超純過酸化水素などの薬液需要も3Q並みの水準を想定しております。
- ・ポリカーボネートは、高付加価値製品の販売増や原燃料費の下落などにより、上海やタイの海外拠点において採算改善が進んでおりますが、旧正月の影響に加え、固定費増、低価法要因などのコスト要因も想定され、3Q比では減益を予想しております。
- ・ポリアセタールは、需要が予想を下回り、3Q並みの損益水準で推移する見通しです。
- ・光学材料は、光学樹脂ポリマーのスマホ向け需要が着実に回復しておりますが、4Qは旧正月前の先行受注の反動が想定され、3Q比では減益の見込みです。レンズモノマーは、引き続き需要は旺盛であるものの、4Qに定修を予定しており、3Q比では減益の見込みです。
- ・電子材料は、主力のBT材料において用途全般的に回復基調が続いており、4Qも3Q比で更なる販売増を見込みます。生成AIサーバ向け等で需要が拡大しているOPEについては、4Qも引き続き堅調な販売を見込んでおります。

なお、為替前提は1ドル140円、1ユーロ150円としており、前回予想から変更はありません。また、原油価格の前提につきましても前回予想同様の1バレル80ドルとしております。

Appendix

セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2022年度(実績)			2023年度(実績/前回予想)*			2023年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,949	3,863	7,812	3,996	4,403	8,400	3,996	4,003	8,000
基礎化学品	2,363	2,425	4,789	2,094	2,339	4,434	2,094	1,987	4,082
機能化学品	1,618	1,471	3,090	1,941	2,130	4,072	1,941	2,054	3,996
全社/調整	▲33	▲34	▲67	▲39	▲67	▲106	▲39	▲38	▲78
営業利益	335	155	490	221	238	460	221	238	460
基礎化学品	144	43	188	94	100	195	94	77	172
機能化学品	203	122	326	142	159	301	142	181	323
全社/調整	▲13	▲11	▲24	▲16	▲20	▲36	▲16	▲19	▲35
経常利益	499	198	697	249	240	490	249	240	490
基礎化学品	208	96	305	74	129	203	74	106	181
機能化学品	253	134	387	178	140	318	178	169	348
全社/調整	37	▲32	4	▲4	▲28	▲32	▲4	▲35	▲39

セグメント別 2022年度及び2023年度 四半期別推移



単位:億円	2022年度					2023年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q(予)	通期(予)
売上高	1,939	2,009	2,044	1,818	7,812	1,870	2,126	2,220	1,782	8,000
基礎化学品	1,171	1,192	1,293	1,132	4,789	1,019	1,074	1,155	832	4,082
機能化学品	788	829	772	699	3,090	872	1,069	1,087	966	3,996
全社/調整	▲20	▲13	▲21	▲12	▲67	▲21	▲17	▲22	▲16	▲78
営業利益	188	146	118	36	490	62	158	165	73	460
基礎化学品	76	68	44	▲1	188	32	62	69	7	172
機能化学品	120	83	80	42	326	35	106	107	73	323
全社/調整	▲9	▲4	▲6	▲4	▲24	▲5	▲10	▲11	▲8	▲35
経常利益	248	250	138	59	697	70	179	184	55	490
基礎化学品	84	124	81	15	305	20	54	90	16	181
機能化学品	145	107	81	52	387	47	131	114	55	348
全社/調整	19	18	▲25	▲7	4	2	▲6	▲20	▲15	▲39

2023年度 第3四半期 貸借対照表



単位:億円	2023年3月末	2023年12月末	増 減
流動資産	4,832	4,791	▲41
現預金	1,083	893	▲190
売掛債権	1,766	1,587	▲178
棚卸資産	1,781	2,010	+229
その他	201	299	+98
固定資産	5,460	5,816	+356
有形固定資産	3,137	2,998	▲139
無形固定資産	119	248	+128
投資その他の資産	2,203	2,569	+366
資産合計	10,293	10,608	+314

単位:億円	2023年3月末	2023年12月末	増 減
負債	3,580	3,937	+357
買掛債務	883	1,069	+185
有利子負債	1,669	1,916	+246
その他	1,027	952	▲75
純資産	6,712	6,670	▲42
株主資本	5,738	5,907	+169
その他包括利益累計額	337	498	+160
非支配株主持分	636	263	▲372
負債・純資産合計	10,293	10,608	+314
自己資本比率	59.0%	60.4%	+1.4

参考：各種指標（1）



単位:億円	2019	2020	2021	2022	2023(予)
設備投資額 [3Q累計]	423 [321]	402 [267]	547 [416]	646 [490]	990 [626]
減価償却費 [3Q累計]	295 [219]	306 [226]	319 [239]	335 [249]	360 [282]
研究開発費 [3Q累計]	196 [140]	199 [149]	210 [156]	235 [171]	275 [193]
年度末人員(人)	8,954	8,998	9,888	10,050	7,986
一株当たり当期純利益 (円/株)	101	173	232	239	231
ROA(総資産経常利益率) (%)	3.9	6.2	8.4	7.1	4.8
ROE(自己資本当期利益 率) (%)	4.3	7.1	8.8	8.3	7.5
ROIC(投下資本利益率) (%)	4.9	7.7	10.4	8.8	5.7
売上高営業利益率 (%)	5.6	7.5	7.8	6.3	5.8
EBITDA	616	817	1,070	1,050	878
配当金(円/株) [うち中間配当]	70.0 [35.0]	70.0 [35.0]	80.0※ [45.0※]	80.0 [40.0]	80.0 [40.0]

※記念配当10円を含む

参考：各種指標（2）



	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	4～12月実績	1～3月実績	4～12月実績	1～3月予想
為替(JPY/USD)	109	109	107	105	110	115	137	132	143	140
為替(JPY/EUR)	121	120	121	126	131	130	141	142	155	150
原油価格(Dubai) (US\$/bbl.)	64	56	37	52	69	87	97	80	83	80
メタノール (US\$/MT) アジアスポット平均価格	277	245	194	319	370	428	366	355	304	340
原料キシレン(US\$/MT)	705	640	420	560	780	875	1,040	945	930	860
ビスフェノールA (US\$/MT)*	1,000 ～1,450	1,050 ～1,350	900 ～1,450	1,400 ～3,300	2,750 ～3,700	2,100 ～3,150	1,250 ～2,200	1,250 ～1,350	1,150 ～1,400	1,150 ～1,300
ポリカーボネート (US\$/MT)*	1,900 ～2,250	1,650 ～2,000	1,500 ～2,150	2,100 ～4,000	3,100 ～4,050	2,650 ～3,650	1,800 ～2,900	1,800 ～2,050	1,650 ～1,900	1,700 ～1,800

*期間中の最小値および最大値を記載

感応度(概算)

為替(USD) : 1円の円高(円安)で、営業利益6億円/年、経常利益6億円/年の減益(増益)
為替(EUR) : 1円の円高(円安)で、営業利益2億円/年、経常利益2億円/年の減益(増益)
原油(Dubai) : \$ 1/bbl.の上昇(下落)で、2億円/年の減益(増益)、メタノールへの影響は含まず
メタノール : メタノール市況 \$ 1/MTの上昇(下落)で、持分法利益1億円/年の増益(減益)

参考:主要製品群別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移



単位:億円	2022年度(実績)			2023年度(実績/前回予想)*			2023年度(実績/今回予想)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	3,949	3,863	7,812	3,996	4,403	8,400	3,996	4,003	8,000
天然ガス系化学品	1,194	1,277	2,471	975	1,114	2,090	975	1,137	2,113
芳香族化学品	1,190	1,167	2,357	1,133	1,249	2,383	1,133	868	2,002
機能化学品	1,261	1,228	2,489	1,648	1,757	3,405	1,648	1,697	3,346
特殊機能材	358	244	602	293	374	667	293	356	650
全社/調整	▲54	▲53	▲108	▲55	▲91	▲146	▲55	▲56	▲111
営業利益	335	155	490	221	238	460	221	238	460
天然ガス系化学品	65	23	88	41	45	86	41	40	81
芳香族化学品	79	19	98	53	54	108	53	36	90
機能化学品	129	111	241	88	61	150	88	91	180
特殊機能材	74	10	84	53	97	150	53	89	143
全社/調整	▲13	▲10	▲23	▲16	▲20	▲36	▲16	▲19	▲35
経常利益	499	198	697	249	240	490	249	240	490
天然ガス系化学品	121	79	201	18	73	91	18	68	86
芳香族化学品	87	16	103	56	55	111	56	38	94
機能化学品	164	117	281	116	38	155	116	78	195
特殊機能材	88	17	106	61	101	163	61	90	152
全社/調整	37	▲32	▲5	▲4	▲28	▲32	▲4	▲35	▲39

(注)便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります。

* 2023年11月8日公表

参考:主要製品群別 2022年度及び2023年度 四半期別推移(※)



単位:億円	2022年度					2023年度				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q(予)	通期(予)
売上高	1,939	2,009	2,044	1,818	7,812	1,870	2,126	2,220	1,782	8,000
天然ガス系化学品	616	577	677	600	2,471	492	483	545	592	2,113
芳香族化学品	565	624	626	540	2,357	535	598	619	249	2,002
機能化学品	596	664	642	585	2,489	735	913	912	784	3,346
特殊機能材	192	165	129	114	602	136	156	175	181	650
全社/調整	▲31	▲23	▲32	▲21	▲108	▲29	▲25	▲31	▲25	▲111
営業利益	188	146	118	36	490	62	158	165	73	460
天然ガス系化学品	38	27	17	5	88	18	22	16	24	81
芳香族化学品	38	40	27	▲7	98	13	39	53	▲16	90
機能化学品	75	54	72	39	241	16	72	63	27	180
特殊機能材	45	29	8	2	84	18	34	43	45	143
全社/調整	▲9	▲4	▲6	▲4	▲23	▲6	▲10	▲11	▲7	▲35
経常利益	248	250	138	59	697	70	179	184	55	490
天然ガス系化学品	39	81	53	26	201	5	12	33	34	86
芳香族化学品	44	42	28	▲11	103	15	41	57	▲18	94
機能化学品	90	73	66	50	281	24	92	65	12	195
特殊機能材	54	34	15	1	106	22	39	48	42	152
全社/調整	19	18	▲25	▲7	5	2	▲6	▲20	▲14	▲39

(注)便宜的に過去のセグメントに準じて算出した参考値となります

報告セグメント	主要製品群 (旧セグメント)	主要製品
基礎化学品	天然ガス系化学品	・メタノール ・メタノール/アンモニア系化学品(アンモニア・アミン類、MMA系製品、ホルマリン・ポリオール系製品、等) ・エネルギー資源・環境事業
	芳香族化学品	・ハイパフォーマンスプロダクツ(MXDA、MXナイロン、芳香族アルデヒド等) ・キシレン分離/誘導品(メタキシレン、高純度イソフタル酸(PIA)等) ・発泡プラスチック事業(子会社JSP)
機能化学品	機能化学品	・無機化学品(エレクトロニクスケミカルズ(超純過酸化水素、ハイブリッドケミカル)、過酸化水素等) ・エンジニアリングプラスチック(ポリカーボネート/シートフィルム、ポリアセタール等) ・光学材料(光学樹脂ポリマー、超高屈折レンズモノマー等)
	特殊機能材	・電子材料(半導体パッケージ用BT材料等) ・脱酸素剤(エージレス®等)

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社
CSR・IR部 IRグループ

TEL 03-3283-5041

URL <https://www.mgc.co.jp/>



IRメール配信サービス

適時開示やIRに関する最新情報について、
メールでお知らせいたします。ぜひご登録ください。

